

7

プロとコンピュータ将棋

米長 邦雄
日本将棋連盟会長

えらいことになったなあ。コンピュータ将棋ソフトがプロ棋士より実力が上になったんだとか。私はまったく信じないがどうもそれは着実に一歩ずつ前進しているようである。

今年のコンピュータ将棋選手権の決勝の日に顔を出してみた。関係者の話を総合してみると、この日の優勝チームはどこかというよりも、秋に行われる清水市代との対戦の方に関心があるようであった。

情報処理学会創立 50 周年。コンピュータ将棋発足 35 周年。その記念すべき年(2010 年)にプロ棋界への挑戦状が手渡された。もちろん受けて立つことにした。どうやら学者、開発者の皆さんは勝ると錯覚しているようであった。プロは一人で戦う。問題はコンピュータの方だが、どうやら各ソフトの集合体になるらしい。三人寄れば文殊の智恵。単独でもプロ棋士に勝てるかというソフトが智恵を出し合って指し手を決めてゆくというから、ただごとではない。しかしもう一方で古来の金言もある。船頭多くして舟山へ登る。このことわざが果たしてどのような結果を出すのか面白いところではある。

今年のコンピュータ選手権も 3 日間で行われた。なじみのソフト、開発者、研究者の顔が揃っている。全員異口同音に「ソフトは今年も強くなった」と一様に言っていた。私は人間の目というかプロ棋士の立場からしか景色が見えないから、たぶん私の見た感想はあまり公表しない方がよいだろう。GPS 将棋なるチームは東大の 300 台のコンピュータをつなげて演算しているということだった。そこが優勝すると予想する向きもあったがそんなに単純なもので

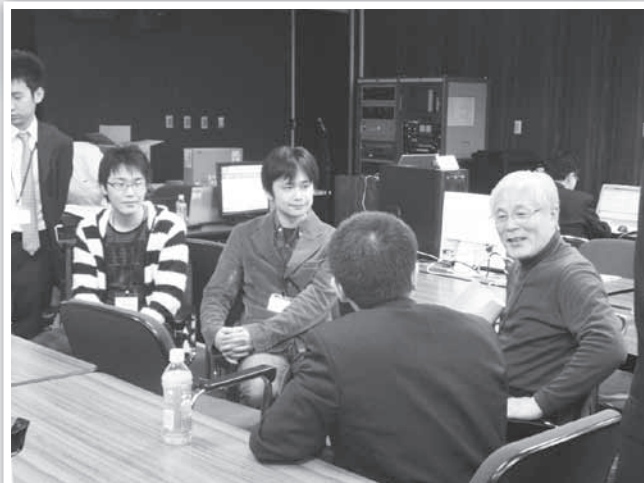


図-1 第 20 回世界コンピュータ将棋選手権での様子。右端が米長邦雄会長

はあるまいと思う。計算が速くなって、確認作業がミスを少なくするという話だったがプロの将棋はそんな程度のことには関係なく形勢に差がつき勝負がつく。プロの直感と大局観。このふたつが解明されたときがプロが追い越される日と思っている。

ヘボの考え休むに似たりという金言もあって、これは考えることは直感に劣ることを皮肉ったものだ。

いずれにせよ清水市代との対局は今秋、10 月 11 日にしようかと決まった。私も大いに楽しみにしている。

(平成 22 年 6 月 11 日受付)

米長 邦雄

1943 年山梨県生まれ。1963 年プロ棋士となる。1985 年永世棋聖となる。1993 年第 51 期名人となる。2003 年史上 4 人目の 1100 勝達成。2003 年現役を引退し、日本将棋連盟役員立場から、将棋の普及・発展、に力を注ぐ。2005 年より日本将棋連盟会長。